



全国22都市でセミナー開く

地方創生・国土強靱化をテーマに

インフラ整備のデジタル化支援

フォーラムエイトは1月20日の鹿児島市を皮切りに、全国22都市で「第8回FORUM8地方創生・国土強靱化セミナー」を開催し、3月12日に札幌市で閉幕した。同セミナーは、国土強靱化と地域振興の取り組みを結びつけ、自治体や建設分野におけるインフラ整備のデジタル化推進を支援することを目的に2019年から開催している。開催都市は年々拡大しており、今年は昨年の18都市から22都市へと増加、来年は24都市での開催が予定されている。本稿では、初開催となった横浜市会場の模様をレポートする。

横浜市会場では初開催

◆VR・シミュレーション リリース以来39年の実績を誇る「VR・シミュレーション」技術を開発する冒頭、フォーラムエイトに代表取締役社長の伊藤裕二氏があいさつし、同社の事業実績や取り組みを報告した。

◆土木・建築設計用システム「UCシリーズ」は、国内初のパソコン用土木設計システムとして



初開催となった横浜市会場

技術連携と研究開発を加速

政府もAIやICTの活用推進

システムの開発を進めており、ここ5年間は過去最高の売上を更新しているという。

◆AI・ドローン・Web3次世代インフラへ

システムの開発を進めており、ここ5年間は過去最高の売上を更新しているという。

◆AI・ドローン・Web3次世代インフラへ

北海道のコンクリート関連企業との技術開発連携や大阪支社でのAIデータセンター設置、ドローンスクールの開校など、研究開発と人材育成の取り組みも紹介した。

さらに4月21日からイタリア・ミラノで開催される「ミラノサローネ2026」への出展を予定



フォーラムエイトの伊藤裕二社長



特別国会開会によりビデオメッセージで出演した衆議院議員の牧島かれん氏



デジタル庁審議官の奥田直彦氏

ミューションソフトを基盤に、自動運転研究開発用のドライビングシミュレーターをはじめとして各種デジタルツインシ

◆デジタル庁が描く「デジタル庁2.0」

◆デジタル庁審議官の奥田直彦氏が「神

デジタル庁で進めてきたアナログ規制見直し取り組みに、防災や社会インフラ分野に向けた日本発工

◆デジタル庁が描く「デジタル庁2.0」

◆デジタル庁審議官の奥田直彦氏が「神

も述べた。

◆3D都市モデルとデジタルツイン活用

セミナーではこのほか、同社の最新ソリューションとして、AIやFEM解析を活用した国土強靱化向け設計支援技術や、3D都市モデルを活用したデジタルツインの事例などをプレゼンした。

3DVRソフト「UC-win/Road」や3DCGソフト「Shadow 3D」を用いた都市シミュレーションでは、交通解析や自動運転の検証、防災計画の検討など幅広い用途で活用できるとした。

浸水氾濫解析による災害対策の検討や、群衆シミュレーションを用いた避難計画の検証などの具体的な事例も示され、自治体やインフラ分野でのデジタルツイン活用の可能性を提示した。

◆メタバースやNFTのデモ展示も

会場では、メタバースプラットフォーム「F8VPS」やNFT基盤「F8NFTS」などのデモ展示もされ、参加者がVR空間上でのコミュニケーションやコンテンツ流通技術を体験する場となった。

フォーラムエイトは今後もAI、VR、デジタルツインなどの技術を活用し、地域社会やインフラ分野のDX推進に向けたソリューション提案を進めていくとしている。



メタバースプラットフォーム「F8VPS」やNFT基盤「F8NFTS」をデモ